

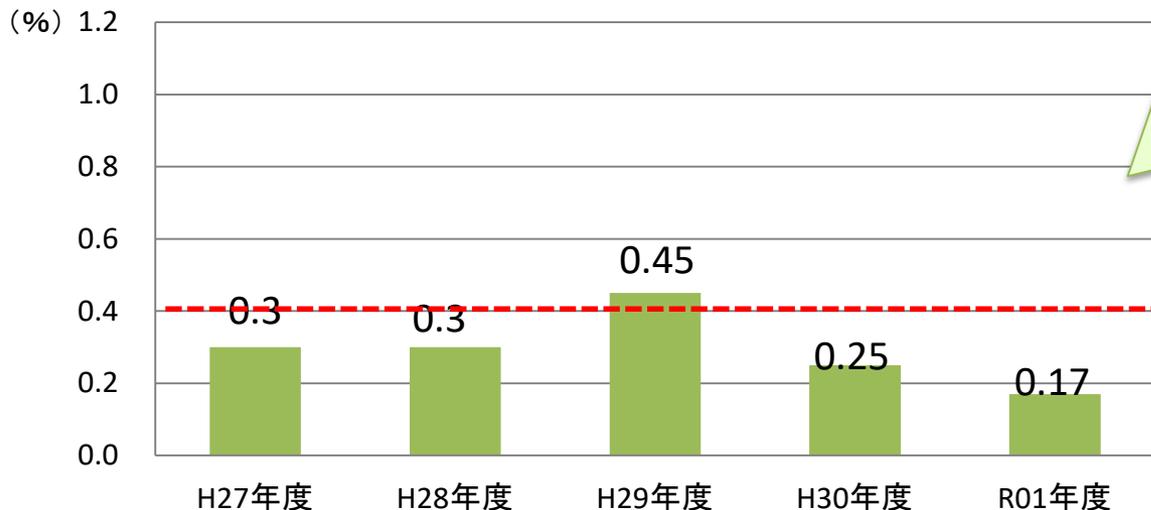
輸血部：赤血球製剤廃棄率

■ 解説: outcome指標

輸血の需要増加に伴い、血液製剤の適正使用を推進することは重要です。当院では、平成15年6月から血液製剤準備にコンピュータクロスマッチを導入しています。このシステムは、ヒューマンエラーによる異型輸血事故の防止や、手術に際して余剰な製剤準備を回避し、効率的な使用が期待できます。

輸血部では、輸血療法や血液製剤の適切な取り扱いについての講習を行い、安全な輸血と血液製剤の有効利用に努めております。

■ 当院の実績



《自己点検評価》

平成18年度に2.6%であった赤血球製剤廃棄率は、コンピュータクロスマッチの導入により適切な製剤管理を行うことで、平成25年度以降、概ね0.4%以内で推移しています。平成30年度には適正な輸血オーダーや血液製剤の有効利用によって0.25%となりました。今後も0.4%を目安に、より一層適正で有効な利用に努めて参ります。

■ 定義

種々の要因によって廃棄となった赤血球製剤の単位数を赤血球製剤の購入単位数で割った割合を赤血球製剤廃棄率としています。500床以上の施設において、平成27年度血液製剤使用実態調査による赤血球製剤廃棄率の全国平均は0.84%です。

■ 算式

分子：赤血球製剤廃棄単位数 分母：赤血球製剤購入単位数